

～子どもも大人も楽しい～

## 引野学区放課後子ども教室 【福山市】

### 教室の概要

○ 教室の目的

地域が子どもたちを見守り、「安心・安全」な子どもの居場所をつくるため。

○ 教室開設の経緯

「子どもの参加によって、地域を活性化する」という地域課題を実現する一環として、実行委員会を立ち上げ、開設した。

【開始年度】平成24年度（5月）	【実施校区】引野小学校区
【開催場所】集会所、公民館、小学校運動場	【安全管理員人数】 72人 ※安全管理員の中には、学習アドバイザーの役割を兼ねている者もいる。
【開催日・開催時間】月2～3回、2～3時間	
【年間開催日数】25日	
【参加学年・平均参加人数】小学校4～6年生 25人	

### 活動内容

○主な活動メニュー

活動①	宿題、読み聞かせあるいはミニ工作
活動②	囲碁
活動③	イベント（工作、レクリエーション、スポーツ、音楽 など）

○特徴的な活動プログラム

企業の陸上部による走り方教室

学区内企業によるロボット作り

寿光会（老人会）指導によるリーム回し、竹細工、グラウンド・ゴルフ

中学生ボランティアの活躍

- ・夏休みに、中学生が指導者になって、宿題の学習を支援している。
- ・小学生と中学生と一緒に、マーブリングという手法で布に染色した。作ったものを利用して、夏祭りのメダカすくい宣伝看板を作成した。

紙飛行機作り

ミニ太鼓作りと和太鼓演奏指導・・・公民館を利用する和太鼓サークルが指導している。

囲碁教室（月1回、冬季を除く）

【走り方教室】



【マーブリング】



## 運営上の工夫

- プログラムの企画・立案の工夫
  - ・ 公民館活動サークルや学区団体、企業、個人などに実行委員会のメンバーである公民館長が中心となって、幅広く協力を呼びかけ多様な企画ができた。
- 安全管理面での工夫
  - ・ 安全管理員及びボランティアの説明会を開き、会場内、下校時の安全管理のポイントを説明した。
  - ・ 児童の帰りのルートの把握と児童の安全確保のため、安全管理員と一緒に帰るようにした。
- スタッフ確保の工夫
  - ・ 宿題やミニ工作などの指導は、学区外からもボランティアの協力をお願いした。
  - ・ 教室の開設後、安全管理員について地域に広く呼びかけたところ、36人に参加してもらえた。そのため、年間の全教室に空きがないように割り振りができた。
- スタッフの自主研修の取組
  - ・ 配慮が必要な子どもの指導方法について、小学校の先生に対応の仕方を学ばせてもらった。
- 広報活動の工夫
  - ・ ほぼ毎月「便り」を発行し、取り組んだことの報告や次の計画を、学校を通じて児童・保護者に知らせた。そうすることで参加者を増やし、保護者にも関心を持ってもらうようにした。
- 参加児童、保護者のニーズの把握の工夫
  - ・ 事前のアンケートでニーズの把握に努めた（参加希望、保護者の送迎、教室への協力 など）。
- 学校との連携における工夫
  - ・ 「便り」を全教職員に配布し、取組や予定を理解してもらうようにした。
- 保護者との連携における工夫
  - ・ 参加児童の保護者や教室の中学生ボランティアが中心となり、放課後子ども教室の周知を兼ねて、夏祭りにメダカすくいのお店を出した。
  - ・ 保護者を集めた教室についての説明会の実施は、今後検討していく。

## 事業を実施して

### 【参加者の声】

(児童の声)

- ・ 普段できないグラウンド・ゴルフができてうれしかった。
- ・ 縄跳び達人に教えてもらい、ためになった。

(スタッフの声)

- ・ 子どもたちとの交流がすすみ、大人にとっても楽しい場となっている。教室外でも気軽に声をかけてくれるのでうれしい。
- ・ 子どもたちの思いや考えがわかって、子どもの理解ができるようになった。
- ・ ボランティア同士の親睦が深まっている。
- ・ 工作などにボランティアも子どもと一緒に参加し、楽しくできた。

### 【成果と課題】

- ・ 今年度開設でき、地域で子どもたちを育てる大切さが広く地域住民に理解された。
- ・ 100人を越えるボランティアが関わり、多くの大人と子どもが交流し、地域づくりに役立った。
- ・ 公民館利用サークルや企業、地域内外の個人など幅広い協力があった。
- ・ 事前にアンケートを実施したが、回答内容と実態とが一致しない面があり、運営上難しい面もあった。参加児童が減少気味であり、今後児童の参加を増やしていくことが課題である。

